

出題のねらい

【1】古代、政治の分野

奈良時代の土地政策と、平安時代の地方支配とを取りあげ、律令制の変質過程について問いました。

【2】近代、外交の分野

幕末における不平等条約の締結から、日清・日露戦争前後の条約改正に至る歴史的な流れと、その時々日本が抱えていた外交上の課題が理解できているかどうかを問いました。

【3】近世、文化の分野

江戸時代の学問史（特に儒学・国学）を中心に、文化史の基礎的知識を問いました。

【1】

【解答】(41点)

- | | |
|------------------------------------|---------|
| (1) 墾田永年私財法 | (3点) |
| (2) 聖武天皇 | (3点) |
| (3) 三世一身法 | (3点) |
| (4) 律令の規定を改正する追加法令のこと。 | (4点) |
| (5) 租・庸・調など律令下における国への貢納物の総称。 | (4点) |
| (6) 春に国家が稲を貸し付け、秋に利息とともに徴収する制度のこと。 | (4点) |
| (7) 位をもち官職についている者。 | (4点) |
| (8) 位をもつが官職についていない者。 | (4点) |
| (9) a成功 b重任 c目代 d遙任 | (各3点×4) |

【解説】

史料Aは「墾田永年私財法」です。墾田の私有を認め、班田制の原則を改変した法令です。この法令は、日本の耕地面積を拡大する契機となりましたが、一方では開墾能力の高い貴族や寺社、地方豪族による土地占有をまねき、荘園の成立のきっかけともなりました。

史料Bは「尾張国郡司百姓等解」です。任国に赴任する国司の最上席者は、政府に対する徴税請負人の性格を強めて受領と呼ばれるようになり、巨利を貪って郡司や有力農民から暴政を訴えられることがありました。この史料は永延2年(988)、尾張国司藤原元命の不当を31箇条にわたって訴えたものです。正税出挙の非法、交易雑物の値切りによる不正蓄財、税帳など公文書の偽造、子弟や従者の乱暴など、様々な暴虐ぶりが記されています。

【2】

【解答】(39点)

- | | |
|---|---------|
| (1) a 日米修好通商
b 安政
c 領事裁判権(治外法権)
d 関税自主権
e 岩倉具視
f 陸奥宗光
g 小村寿太郎 | (各3点×7) |
| (2) 鹿鳴館 | |
| (3) 立憲改進黨 | |
| (4) 露国(ロシア) | |
| (5) 遼東 | |
| (6) 三国干渉 | |
| (7) 下関条約(日清講和条約・馬関条約) | (各3点×6) |

【解説】

近代の外交に関する問題です。

文章Aは、幕末における不平等条約締結から、日清・日露戦争前後の条約改正に至る歴史的な流れを説明したものです。設問では、歴代外相に関する基本的事項や、外交上の課題などについて問いました。

史料Bは、日清戦争後に日本と清との間で結ばれた下関条約が、周辺の国際関係に及ぼした影響を物語るものです。条約のなかに含まれていた遼東半島の割譲という講和の条件が、東アジア進出をめざすロシアを刺激します。そこでロシアは、フランスとドイツを誘って日本に遼東半島の放棄を求めてきました。この三国干渉が、続く日露戦争への伏線となっていくます。

不平等条約解消の前提として、日本が欧米諸国と対等にわたりあえる近代国家として認められる必要がありました。したがって、条約改正に至るまでの歴史と、日本が「富国強兵」を進める歴史とは重なりあいます。その相互関係を意識しながら歴史の流れを把握することが重要です。

【3】

【解答】(20点)

- | | | |
|--------|----------|--------|
| a 藤原惺窩 | b 林羅山 | c 山崎闇斎 |
| d 垂加 | e 荻生徂徠 | f 新井白石 |
| g 貝原益軒 | h 本草(博物) | i 本居宣長 |
| j 塙保己一 | | |

(各2点×10)

【解説】

江戸時代の学問史、特に儒学と国学とを取り上げました。

儒学の分野では、江戸初期に朱子学が盛んとなり、藤原惺窩に学んだ林羅山が家康に用いられ、以後林家が代々儒者として幕府に仕えます。また南村梅軒が開き谷時中が受け継いだ南学も朱子学の一派で、その系統から出たのが山崎闇斎です。さらに中江藤樹らが陽明学を学びますが、宋・明の儒学にあきたらず古典に立ち返ろうとする古学派が山鹿素行や伊藤仁斎らによって始められ、それを受け継いだのが荻生徂徠です。

一方の国学は、荷田春満や賀茂真淵によって提唱された学問の流派で、日本の古典を研究し、民族精神の究明に努めた学問です。本居宣長は真淵に学び、『古事記伝』を著して日本古来の精神に帰ることを主張しました。

これらの人物や著作は、これまでに「単語」として学習してきたことと思いますが、現代語訳などを活用しつつ、ひとつひとつ触れるよう心がけて下さい。先人が何をどのようにして学び、研究してきたのかを知ることは、皆さん自身の学びにも活かされるはずです。